刀剣界

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

2024.1.15　No.68

発行人　深海　信彦
発行所　全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保２－18－10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601　FAX:03(3205)0089
https://www.toukenkumiai.com/

第68号編集担当　赤荻　稔　飯田 慶雄
伊波 賢一　大西 康一　大平 岳子　嶋田 伸夫
清水 儀孝　生野　正　瀬下　明　土子 民夫
綱取 譲一　土肥 豊久　服部 暁治　深海 信彦
松本 義行　冥賀 吉也　持田 具宏　吉井 唯夫

「大刀剣市2023」を終えて

三十年以上なじんだ三日間開催を二日間開催に改めた「大刀剣市2023」、無事に終えることができました。これもひとえに参加者の安全への管理意識の高さと、ワンチーム精神の賜物と考える次第です。

初日の開場時間直後に来客が集まり、行列が最寄りの信号にまで達したという話、その行列後尾から入場まで四十分を要したという話…。大切なお客さんを待たせた一部の店から問題視する言葉もありましたが、多くの参加者はうれしい悲鳴と受け止めています。

来場者数は初日が一二〇一名、二日目が七八七名と、二日間の合計は二二年度（三日間）から九九名減じています。一方、広告費は前年度より一五%を削減しました。この二つの関連性は現在、実行委員会には断言しにくいものがあり、今後も精査を重ねていきます。実質経費の削減幅は努力とアイデアに比して、参加者の多くに感じ取っていただけていない印象があります。

一方で私たちの商う刀剣類も世間の値上げラッシュに乗じて価格を上げてよいものか、ここは若干疑問が残るのです。

大刀剣市は落とせる肉をまだ落とす必要があると思われます。実行委員会も反省を重ねアイデアを出し合っていきます。

また「あけみちゃん基金」という産経新聞、日刊工業新聞と手を取り合いつなげてきた小さな灯火があります。若年層の心臓疾患の手術、臨床の場で高価ゆえ不足している人工心肺装置などの不足を少しでも補えるよう、この灯火を次世代の刀剣商にリレーしていきたいと実行委員会は考えています。

（「大刀剣市」実行委員長　綱取譲一）

11月25日に開催された公益財団法人日本美術刀剣保存協会の設立75周年・たたら操業45周年記念 第3回全国大会祝賀式典に同協会名誉会員の彬子女王殿下が臨席し、祝辞を述べられた。　（3ページに詳報）

冊子カタログとウェブの制作に当たって

刀剣組合の事業の一つである大刀剣市が35回目の開催を盛況のうちに終えました。35回の開催を経る間、取り巻く社会の環境にも大きな変化が見られましたが、それに合わせて本事業にもさまざまな改善がなされてきました。

本事業は組合の対外的な事業ですので、それらは社会的な信用にもつながり、組合の価値を向上させるさまざまなメリットもたらします。

一方、共同販売事業である以上、事業全体の統合を図るために出店者にも一定の制約が求められます。商品を紹介するカタログなどにも統一性が求められます。

掲載品は公益財団法人日本美術刀剣保存協会の発行する「保存」以上の鑑定書が付随するものとしているのも、その一つです。カタログは愛刀家の元で保存され、刀剣の資料的役割も果たします。従って、その出来栄えも事業成功の重要なカギと言えます。

また、近年ではウェブカタログを同時に制作し、誰でもいつでも商品を見られるように組合のホームページから発信しています。

これらのカタログ制作作業に当たる大刀剣市実行委員の役割が重要であることは、論を待ちません。実行委員の各々はその自覚を持って、多大な犠牲を払って毎年、編集に携わってきました。

しかしながら、このように一部の実行委員に負担がかかっている現状は決して是認されるものではありません。少しでもその軽減を図るべく、一昨年より複数業者の入札を経て、外部にカタログ制作の発注を試みました。

外注の依頼は、制作会社が出店者と個別に対応を取る必要がありますので、カタログ制作の流れを熟知している点も考慮して決定しました。

印刷に入るまでには、出店者とメールや電話での確認・承認の作業などが必要となります。今回も情報の正確を期したため、予定の仕上がり日よりも遅れました。

しかし、数名の実行委員が制作過程で数回の確認作業を行う必要はありますが、以前と比べると委員の負担が大幅に減少しています。

実行委員の年代も上がり、本事業を今後も継続させていくには、委員の負担の軽減を図っていくことが不可避です。そのような観点からも、今後も出店者と実行委員会、制作会社三者による密な共同作業が不可欠となります。出展者の皆さまには、今後とも積極的に協力をお願いします。（嶋田伸夫）

会場の東京美術倶楽部　（一連の撮影／トム岸田）

この度の能登半島地震により、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災されました皆さまに心からお見舞い申し上げます。

■当組合では、能登地方で被災された刀剣関係の職方さんを支援してまいります。この件に関して、現況等の詳しい情報をお持ちの方は、ぜひお知らせください。

刀 買取 委託
e sword　イソード
〒350-1115 埼玉県川越市野田町 1-4-19 1F
TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407
刀 通販サイト
www.e-sword.jp
日本刀 イーソード 検索
mail:info@e-sword.jp
(株)e-sword（イーソード） 平子誠之

刀剣・書画・骨董
和敬堂
土肥豊久・土肥富康
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
http://wakeidou.com/

刀剣 髙吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 090-8845-2222
代表者　髙島吉童
東京都北区滝野川７-16-６
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

刀 日本刀・刀装具 販売・買取
創業38年　株式会社 美術刀剣 松本 since1984
代表取締役 松本義行
Tel.03-6456-0889
東京西葛西店/東京都江戸川区西葛西6丁目13-14丸清ビル3F
刀剣松本 検索

銀座日本刀ミュージアム
泰文堂
〒104-0061 東京都中央区銀座６-７-16
岩月ビル２階
㈱銀座泰文堂　代表 川島貴敏
TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367
http://www.taibundo.com

令和6年1月15日発行　刀　剣　界　第68号

出店者から①

初出店に臨んで

矢澤 隼（矢澤商会）

矢澤 隼さん

矢澤商会の矢澤と申します。

この度は全国の有名店が集まる年に一度の大イベント、大刀剣市に参加させていただき、誠にありがとうございます。

出店についてお取り次ぎしてくださった清水専務理事、ご承認いただきました理事長はじめ、各理事の皆さま、運営してくださった実行委員会の皆さま、そして、個別に親身になり相談に乗ってくださった方々に、この場をお借りして感謝の意を申し上げます。誠にありがとうございました。

今回、大刀剣市には、日本刀を3Dデジタル画像にしてパソコンやスマートフォンでさまざまな角度から鑑賞できるサービス（名称は360°デジタル刀）を作りまして、その告知をしようと思い初出店させていただきました。

日本刀をデジタル上で「鑑賞するサービス」はあるものの、「制作サービス」自体をやっているところは見当たらなかったため、出店前日までクリエイターとして自信満々で、取材の心配や大注目を浴びるのではないだろうかという勝手な予想をしていました。

正直に、今振り返ってみた感想は、現実よりも私の妄想の方が大きかったです。

お客さまを観察していると、店名のプレートを見て歩いている方が多いと感じました。知らない店、お探しの店でないと判断した場合、別のブースのプレートへ目線が向かう。または、空きスペースに刀や刀装具も並べたのですが、そちらの商品に目線が行き、見てもらいたい商品である360°デジタル刀が映し出されたモニターはあまり見られない。見られたとしても、ただの動画だと思われているのか、置いてあるマウスで操作し、モニターの刀が自由に操作できることを認識、その時点でやっと驚かれるという流れでした。

今となり考えてみれば、私自身も過去に客として、何度かこの大刀剣市を見学させていただきまして、同じように目的である店や物を探していたのを思い出しました。まさに後の祭り状態です。

作るだけで精いっぱい、見せる工夫、告知する工夫まで力を入れられない、そんな自分の限界が発覚し、当日作戦変更を二回ほどしたエンジンフル回転の二日間となりました。

多くの来場者がいる中、少なからず気づいてくれた方は驚きの表情、価値を示すにも努力が必要だとあらためて痛感しました。

幸いなことに、会場の費用はなんとか補うことができました。

開発に関して言うと、費用はもちろんのこと時間も一年ほどかかりまして、今の時点での売上では大赤字ではありますが、告知は少なからずできましたし、何よりネットでは出会わないであろうご高齢の方とも出会うことができ、刀剣販売におけるお客さまになってくれたことが大きな副産物でした。

また、過去にネット販売するも、直接お会いしたことはないお客さまたちがブースまでご挨拶に来てくださり、ネットでは味わえない幸せな体験を得ることができました。来場者の割合で言えば非常に少ない数ではありますが、3D刀は外国人と若い方が興味を持ってくれたようで、励みになりました。

業者さまにも「良い意味で衝撃が走った」と褒めていただき、それも励みになるも、今回苦労したせいか、思わず涙腺が崩壊しそうになりました。

新規事業は難しいものですが、五年から十年の長期目標でゆっくり頑張っていこうと思います。

さらなる刀剣界発展に協力ができるよう、若輩者ではございますが精いっぱい努めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。この度はありがとうございました。

〈栄典〉

■木原村下に読売あをによし賞

文化遺産の保存・継承の功績をたたえる「第十七回読売あをによし賞」の受賞者が決まった。今回から二つの部門で本賞を選定し、応募件数は五十一件。「保存・修復」部門は、日本刀の製作に欠かせない「たたら製鉄」の技術を守る木原明さん（87）が選ばれた。

木原さんは、選定保存技術保持者・日刀保たたら村下として、長く玉鋼の生産に携わってきた。

なお、「継承・発展」部門は、約三百年の歴史がある神楽を受け継ぐ古河神楽保存会（高橋博会長、茨城県古河市）が受賞した。

■臼木良彦さん、東京マイスターに

令和五年度の東京都優秀技能者（東京マイスター）知事賞が、研師で当組合賛助会員の臼木良彦さんに贈呈された。

臼木さんは公益財団法人日本美術刀剣保存協会認定無鑑査。江東区登録無形文化財保持者。

同賞は、都内に勤務する技能者のうち、きわめて優れた技能を持ち、他の技能者の模範と認められる方々に贈られる。中小企業における技能者の育成等を図るとともに、広く社会一般に技能尊重の気風を浸透させ、技能者の社会的地位および技能水準の向上を図ることを目的として毎年度表彰が行われている。

昭和五十八年度の制度発足から、令和四年度に至るまでの受賞者は一七七六名。平成二十一年度には、研師の阿部一紀さんも同賞を受賞している。

〈訃報〉

■飯塚賢路さん

当組合員の飯塚賢路さんにおかれては、去る十月十六日に逝去されました。八十七歳。埼玉県さいたま市見沼区で「刀剣・古美術飯塚」を営まれ、業歴五十二年でした。ご冥福をお祈りします。

■大西孝男さん

当組合員の大西孝男さんにおかれては、去る十一月二十三日に逝去されました。八十三歳。埼玉県さいたま市緑区で「大西美術刀剣」を営まれ、業歴五十年でした。ご冥福をお祈りします。

出店者から②

大刀剣市に出店して

山田基洋（三刀流）

山田基洋さん

この度は大刀剣市に出店させていただき、誠にありがとうございました。

今年から二日間とのことでしたが、十時のスタートから数多くのお客さまが来場されました。

コロナも落ち着いて外国人のお客さまも数多く来場されていました。その中でも、インド人のお客さまには驚きました！

今までは数店舗でお手伝いをさせていただきましたが、今年から大刀剣市に出店して多くの来場者さまと交流できたことが非常に良い経験となりました。

私は沖縄県をメインに刀の販売をしております。那覇市にある刀剣店と、沖縄県にいる刀工さんとで、沖縄で愛刀家を増やす活動をしております。

大刀剣市に初出店して【三刀流】が多くのお客さまに宣伝できたのがありがたく思います。

初出店で大成功とまではいきませんでしたが、得るものが多い経験となりました。

改善できる点を振り返り、次回も出店できるよう頑張りたいと思います。

今後ともよろしくお願いします。

秋の叙勲　都内432人に栄誉

3日付で発令される令和5年秋の叙勲で、都内からは432人が選ばれた。それぞれの分野で顕著な功績を挙げた人をたたえる旭日章が74人、長年公務などに力を尽くした人に贈られる瑞宝章が358人。このうち、旭日双光章を受章した北区の選定保存技術「甲冑修理」保持者、小澤正実さん(70)＝北区＝に喜びの声を聞いた。

技術伝承願い見本製作

甲冑修理技術者

旭日双光章 小澤正実さん(70)

幼いころ、端午の節句で飾られる勇ましい五月人形に心をときめかせたのが、原点だった。小学生高学年から中学生にかけて、NHKの大河ドラマでは、豊臣秀吉を描いた「太閤記」などの歴史作品が放送され「その時代ごとの甲冑の変化に、夢中になった」という。

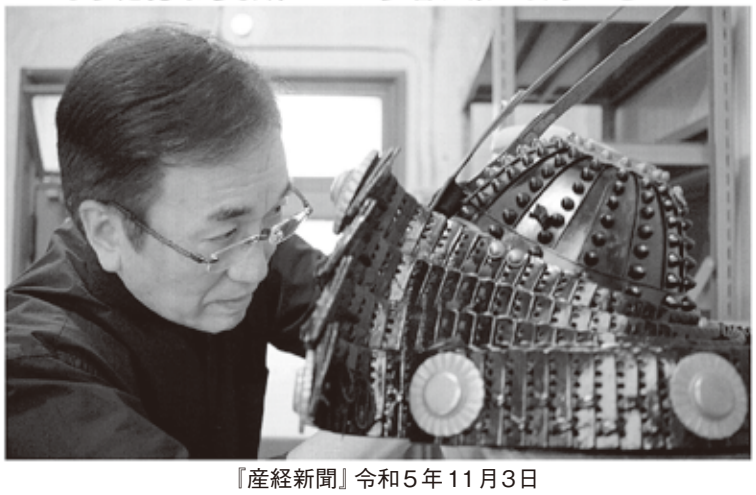
「甲冑に関わる仕事をしてはどうか」。高校2年になると、一つの世界に並々ならぬ関心を示すことを知った進路指導教諭からアドバイスされた。そういわれ、東京国立博物館に問い合わせると当時、館内の文化財修理室で作業に携わる認定保存技術保持者の牧田三郎氏を紹介される。神奈川県寒川町にあった自宅から電車を乗り継ぎ、片道2時間以上かけて牧田氏のもとに通い始め、高校卒業後に本格的に弟子入りした。

昭和59年の牧田氏の引退を機に修理室を継承。高校時代から数えると五十余年を、博物館の一角にあるこの部屋で過ごしてきた。うるし塗りや皮革、金工、染色など、甲冑に関わる仕事を全て一人でこなす。

徳川家康、黒田長政、前田利家…。自身が手がけた甲冑の持ち主には、歴史上のそうそうたる人物の名が挙がる。思い出に触れながら「多くの文化財に関わることができて、自分は幸せ。本当に満足している」と表情を崩した。

現在は修理作業と並行して、甲冑の見本製作にも力を注ぐ。「私のようにかぶとに興味を持った子供たちが、将来この道に進むかもしれない」。作業の工程を示した全ての見本の製作をつくり終えるまで、予定ではあと7年。完成後は国に寄付するといい「技術の伝承に役立ててもらえれば」と静かに語った。

（宇都木渉、写真も）



製作中の甲冑の見本を手にする小澤正実さん＝台東区

『産経新聞』令和5年11月3日

令和6年1月15日発行　**刀　剣　界**　第68号

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、**記事を募集しています**。ニュースや催事情報、イベント・リポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

(公財)日本美術刀剣保存協会で周年記念祝賀会が開催される

公益財団法人日本美術刀剣保存協会（酒井忠久会長、以下「刀剣協会」）は去る十一月二十五・二十六の両日、「協会設立七十五周年・たたら操業四十五周年記念第三回全国大会」を開催したが、二十五日には第一ホテル両国において祝賀式典が執り行われた。

来賓として、佐藤進（公益財団法人高松宮妃癌研究基金参与）、逢沢一郎（刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟幹事長、衆議院議員、代理出席）、山田宏（同事務局長、参議院議員）、髙橋弘幸（神宮司庁造営局装束部課長）、楠林豪（靖國神社遊就館部史料課長）、福田はるみ（墨田区教育委員会教育長）、山本英治（本所警察署長）、加藤裕之（墨田区議会議長）、澁谷哲一（すみだ北斎美術館館長）、糸原保（奥出雲町長）、毛利元栄（株式会社プロテリアル執行役員特殊鋼事業課長）の各氏らが臨席、当組合から深海信彦理事長が列席した。

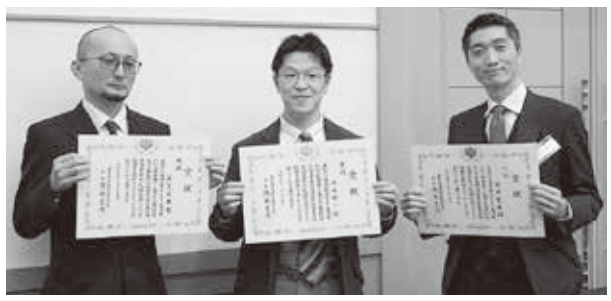
挨拶の言葉を述べる酒井会長

柴原勤専務理事の開式の辞に続き、酒井会長から挨拶の言葉があり、先人たちの築いてきた伝統を守り、刀剣協会は今後とも刀剣文化の拠点として刀剣類の保存と斯界の振興に尽力していく決意が述べられた。

続いて、彬子女王殿下よりお言葉があった。戦後の混乱の中で日本刀を守った関係者の努力と、たたら再興をたたえ、一度断ち切られた伝統を再現することの困難さを強く訴えられたことに、出席者はあらためて感銘を受けた。

次に祝辞があり、たたら操業を支援する株式会社プロテリアル執行役員の毛利氏と、刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟事務局長の山田議員が登壇し、それぞれ刀剣協会の活動を支持し、活躍に期待する旨が述べられた。

式典は祝電の披露、協力団体の功労者と永年勤続職員の表彰と続き、次に一本入札鑑定の結果と成績優秀者表彰が行われた。


左は地位の冥賀亮典さん、右は人位の飯田慶雄さん。
中央は天位の池永順一さん

全国大会の恒例の入札鑑定は難問で知られ、全国の目利き自慢が競う場であるが、喜ぶべきことに、当組合から地位に冥賀亮典さん、人位に飯田慶雄さんが上位入賞を果たした。

志塚徳行常務理事の閉式の辞で祝賀式典は滞りなく幕を閉じ、祝賀懇親会に引き続いた。

刀剣協会が設立されたのは、敗戦から二年半後の昭和二十三年二月である。細川護立氏が会長に就任し、常務理事として運営を担ったのが本間順治・佐藤貫一の両氏であった。その四月に刀剣の譲渡や交換が可能となるのを受けて、九月には早くも貴重刀剣の審査が開始される。

刀匠らの強い要望もあって、玉鋼の払底する状況を打開すべく五十二年十一月、「日刀保たたら」は操業を開始するが、それを決断したのも本間会長・佐藤専務理事（当時）らであった。

今や両人を知る者も少なくなってしまったが、あらためて往時を思い起こさせるひとときであった。

恒例の組合交換会開く

年の瀬が迫る十二月十七日、東京美術倶楽部で本年度三回目の組合交換会が開催されました。基本的には年二回を予定していますが、今期は多くの買い取り商品が入荷しましたので、三回目の交換会となりました。

参加者は六三名で、午前十時に深海理事長の挨拶で始まり、土肥副理事長の発句、飯田理事の競りで開会しました。

初めに参加者の組合員が成り行き品を出品、次に本番品が競りにかけられ、最後に組合買い取り商品が、競りにかけられました。

総出来高は三〇八五万八千円でした。

今回の出品商品は前回七月十七日の臨時交換会の後、自治体や公益財団法人日本美術刀剣保存協会の紹介、組合ホームページでの査定買い取り等で入荷したものが主です。査定買い取り依頼は、基本的には組合事務所に持参していただきますが、地方の場合は事前に連絡の上、送付していただくことになります。また、やむを得ない場合、出張訪問することもあります。持ち回りで複数の理事がチームで担当します。

次回の交換会は五月十七日を予定しています。

（清水儀孝）

組合こよみ（令和5年10～12月）

10月3日　刀剣評価査定のため服部副理事長と清水専務理事が都内に出張
6日　事務所において大刀剣市カタログの色校正。出席者、嶋田常務理事・綱取常務理事・土子民夫氏
13日　事務所において大刀剣市カタログの最終校正。出席者、嶋田常務理事・冥賀監事・土子氏
18日　東京美術倶楽部において理事懇談会を開催
27日　刀剣評価鑑定のため飯田理事と冥賀監事が日本美術刀剣保存協会を訪問
30日　刀剣評価査定のため清水専務理事が来所
11月7日　牛込簞笥区民ホールにおいて古物商等法令講習会が開催され、秋田由美子事務局員が参加
10日　刀剣評価査定のため伊波副理事長と大平理事が来所
18・19日　東京美術倶楽部において第34回大刀剣市を開催
25日　第一ホテル両国において日本美術刀剣保存協会設立75周年・たたら操業45周年記念第３回全国大会祝賀式典が開催され、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・大西監事・冥賀監事・土子氏が参加
12月5日　刀剣評価査定のため服部副理事長と清水専務理事が神奈川県に出張
5日　刀剣評価査定のため嶋田常務理事が来所
8日　刀剣評価鑑定のため深海理事長・清水専務理事・嶋田常務理事が日本美術刀剣保存協会を訪問
8日　常務会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・嶋田常務理事・綱取常務理事・生野理事・土子氏
12日　東京美術倶楽部において第５回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・大西監事・冥賀監事・飯田相談役・土子氏
17日　東京美術倶楽部において交換会を開催。参加63名、出来高30,858,000円

事務局が新体制になりました

組合員の皆さまへのお知らせが遅くなりましたが、昨年三月末をもって組合事務局に二十四年勤続された有山智和子さん、同十年勤続の濵﨑道代さんが退職されました。

両人の絶妙なコンビで新大久保の組合事務所（別名〝難攻不落の有山城〟）が死守されてきましたが、高齢化により遂に明け渡すことになりました。

後任事務局員は一般公募もしましたが、組合という事情を考慮し、適任者を求めて各方面への声かけ活動の結果、われわれ刀剣組合がお世話になっている東京美術倶楽部に三十五年勤務された廣岡清子さん、大刀剣市を長年にわたってお手伝いいただいた秋田由美子さんの二名が来てくださることになりました。

業務引き継ぎのため、四名態勢が一カ月以上続きましたが、新任の二人は既に美術業界に身を置いていたこともあり、慣習や専門用語にもかなり精通していたので、申し送りも比較的スムーズに運び、即戦力として組合業務を遂行していただいています。

前任者は二名とも湘南からの遠距離通勤でしたが、秋田さん・廣岡さんとも都区内居住なので通勤疲労も少ないかと思います。

両名とも既に組合主要行事である総会・特別交換会・大刀剣市の業務を体験され、各方面からの電話対応にも慣れてきたようです

かつては新大久保の組合事務所で交換会が行われたこともあり、組合員と事務局員が頻繁に顔を合わせていましたが、現在は電話での対応がほとんどです。

それでも諸行事の折には顔を出しますので、近況を聞くなど声をかけてください。怖い声の人がこんな優しい人なんだと、あらためて思われるかもしれません。

（服部暁治）

事務局の秋田さん（左）と廣岡さん

古銭・切手・刀剣　売買　評価鑑定
㈱城南堂古美術店
代表　田中勝憲
〒153-0051
東京都目黒区上目黒四-三一-一〇
TEL　〇三-三七一〇-六七七六
〇九〇-三二〇八-九六一二
FAX　〇三-三七一〇-六七七七

日本刀の江州屋
名品・名刀を販売
店主　小暮舜一
〒529-1315
滋賀県愛知郡愛荘町沓掛80-1
TEL　0749-42-2736
携帯　090-3162-7641
http://www.goushuya-nihontou.com

アオバ企画㈱
高橋一
〒130-0012
墨田区大平四-一九-二-一三〇八
TEL　〇三-三六二二-二三三一
FAX　〇三-三六二二-二二五一
メール　aobakk@pj8.so-net.ne.jp

刀剣・小道具・甲冑武具
目白　飯田高遠堂
代表取締役　飯田慶雄
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
http://www.iidakoendo.com

美術刀剣、小道具、武具類の売買、加工及び御相談承ります
大阪刀剣会
吉井唯夫
大阪市中央区日本橋二-七-一
TEL　〇六-六六三一-二二一〇
FAX　〇六-六六四四-五四六四

「登録証問題」を考える 33

事例47　登録審査時のデジタルカメラ撮影

本欄では、かねがね登録審査の際のデジタルカメラ撮影を提言してきた。今回、東京都の登録審査で、東京都がデジタルカメラ撮影を導入したことを知り、うれしくなった。

実は、兵庫県登録の冠落造短刀を入手した。内容確認をすると、銘文も寸法も一致した。ところが目釘穴の数が異なっていた。現物の目釘穴は二個だが、登録証と原票は一個であった。それで現物確認をするべく手続きを進め、都庁に赴いた。

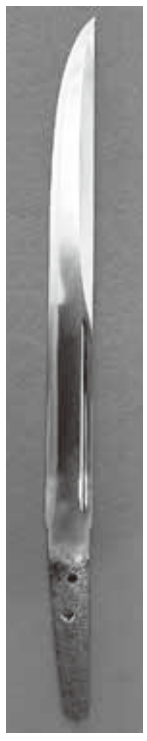
銘文、寸法、地鉄や刃文も一致している。目釘穴の数は誤認の可能性が高いということになった。見るとはなしに目に入った登録台帳のコピーには、何と刀身の造り込みのイラストが描かれているではないか！　当時の担当登録審査委員の名前も見えた。「Y・I」とあった。知人だった。

刀や拵に詳しいその方は、「これはこんな形で…」とイラストを描いて説明することが時々あった。このイラストはまさにその方の手になるもので、また今日、審査に持ち込んだ短刀と全く同じ造り込みである。兵庫で登録された現品であることは確実である。

「撮影しましょうか？」。職員の提案で、登録台帳コピーの上に、短刀を載せ、デジタルカメラでの撮影が行われた。東京都からの報告の後、兵庫県が何と回答してくるだろうか。味なイラストの主も登録審査委員だから、当然、東京都の報告を見るだろうし。

ともあれ、刀剣の情報がデジタルデータとして保存されることはとても良いことである。登録の度にデジタルカメラ（またはスマホのカメラ）で撮影し、それを台帳に添付しておけば、問題があった際に、造り込み、銘文、目釘穴の数などについて、相違が一目で判断され、業務は劇的に改善され、また、われわれも登録審査会場に行かずに、問題が解決されるかもしれない。大いに進めてもらいたいと思う。

（登録証問題研究会）



甲冑の話題――19

（一社）日本甲冑武具研究保存会

戦国時代の実戦に使われた兜には、合戦で被った疵の痕跡があるものがある。伝承に残る兜も、少ないが存在する。

豊後佐伯藩祖の毛利高政所有と伝わる金箔押桃形兜は、棍棒のようなもので打たれた大きな窪みがあり、文禄の役の際の疵と伝わる。また、杉村八右衛門が大坂の陣で着用したと伝わる突盔形兜は、兜の天辺近くに窪みがあり、戦いで受けた刀疵と伝わる。

日本甲冑武具研究保存会では、主に会員が所有する甲冑武具類を持ち寄って、会員相互で鑑賞する月例会を実施している。持ち寄られた甲冑武具類には、時折実戦で被った疵ではないか？と想像を巡らしたくなる疵があるものに出くわす。さすがに伝承は残っていないが、戦国期の歴史の痕跡に触れられて、同時代の人々の生きた姿を近くで感じることができる。

写真1の古頭形兜は、兜の天辺近くの片側が大きく窪み、漆が剝げている。この兜は、作りが簡易で、おそらく量産されたもので、加えて鞠の二段目のみ鉄製、二段、三段目が革製で、兜としては低級品であることや、この兜の作りから、この兜の主は、おそらく徒で戦う武家に奉公する名字を持たない下級の戦闘員であったと思われる。

写真1

さらに、この天辺の窪みの状況証拠から、この兜の主は、長柄（長い鑓）を持ち最前線で戦う戦闘員で（長柄はお互い長柄を振り下ろして叩き合って戦う）、合戦の際、兜は敵の長柄の打撃を受けて窪んだのではないかと思われ、兜の主は、打撃で恐らくひざまずき、苦痛に顔を歪めたのではないかと想像される。

この兜の窪みには、よく見ないとわからないが、金箔がわずかに残っていて（写真2）、当時の長柄には金や銀の箔が押されていた（北条氏定書）ことで、長柄で打撃を受けた際の金箔ではないかとも想像が巡らされて、興味深い。兜の主のその後はどうであったか？四百年以上前の歴史の中の事件に思いを馳せることができる。

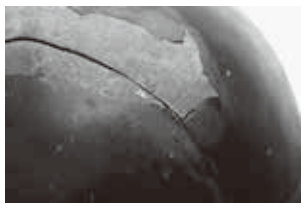


写真2

当会月例会は、直近では、東京都新宿区水稲荷マンション参集室にて、九月二十四日（日）に「胴丸・腹巻持ち寄り鑑賞会」（写真3）を行い、十月十五日（日）には、「変り兜持ち寄り鑑賞会」（写真4）を行った。

その各々の甲冑武具には、その主の生きた人間の歴史が添うもので、残された甲冑武具は、多くを語ってくれないが、その甲冑武具を注意深く観察すると、時折その時代の歴史の事件やその主の姿を想像するヒントを見つけることができ、鑑賞の楽しみを倍増させてくれる。（（一社）日本甲冑武具研究保存会理事　齋藤直巳）

写真3

写真4

アンコール企画

ジョーちゃんの健脚商売

葛飾区高砂 編

今日の俺の行き先は葛飾区高砂。高齢者になっても走り続ける俺が、刀匠の吉原義人氏の新居を訪ねる。同じ町内での引っ越しとなったので、電話番号は変わらず通じる。鍛錬所は町内に置かない。

氏のこれまでの道のりは決して平たんなものではなかった。中でも二〇一八年五月に起きた悲劇はとりわけ氏にはこたえた。ご長男の義一さんの訃報が療養先の北米から届き、無言の帰宅となったのだ。また昨年五月には実弟の荘二国家氏の訃報もあった。

今日は義一さんの長男、義人氏の孫に当たる慧君も茨城の鍛錬所から合流する予定だ。彼は昨年の刀匠試験に合格を果たし、刀匠銘もそのまま慧だ。義人氏と慧君とでは二世代離れていて、自然と体得するのを待つには焦燥感が伴う。大奥様も、晩年の国家氏が熱心に慧君を教えに来ていた、と話してくださった。

義人親方の頑なさ、国家大叔父のきらめき、そして父親、義一氏の華やかさ、これらを一身に背負い慧君はやがて大輪の花を咲かせてくれるに違いない。

吉原ご夫妻と孫の慧クン

義人氏が当組合のターニングポイントに現れ、喝を入れてくださったのはご存じだろうか。もはや覚えている人も少なくなったが、当組合の黎明期に湯河原の旅館に刀職者らを招きシンポジウムを企てた。しかし蓋を開ければ、烏合の衆。その時、義人氏が皆に喝を入れたのだ。

「オイッ、うるさいぞ、静かにしろ！」。この一言により活発な意見が出てきたのだった。

かく言う俺も氏に一喝されている。一四年秋の吉報の時だ。研磨の本阿彌光洲氏の重要無形文化財保持者認定とその祝賀会の案内を受け取る。差出人の名は刀匠の宮入恵氏。はしゃぐ俺。大刀剣市で当ブースに義人氏が来た時、

「宮入先生からおめでたい案内を頂きました」と俺。

「オイッ、綱取、お前、恵君のことを先生と呼ぶのか？　お前ら同年代じゃないか、もっと堂々としていろよ、しっかりしろっ！」。ご意見番の喝はしみじみと効く。大体、俺たち商人の中にも刀匠を「先生」と呼ぶことにより、神棚の上にトス上げしてしまう者もいるのは事実。ご意見番は当然お見通しだ。

第二章　君はデ・トマソ・パンテーラを見たか

ずいぶん昔、銀座の小さなショットバーで俺と吉原義一氏は杯を重ねていた。故清水忠次刀匠が怖かった話、故杉田善昭刀匠の刃文の話とひとしきり話した後、ふと俺の髪型の話になった。

義「綱取さんはずっと髪、長いの？」

俺「おうっ、ロンゲヂュジナーレよ」と自動車雑誌で覚えた単語がうっかり口を突いて出た。これはスーパーカー少年の永遠のアイドル、ランボルギーニカウンタックLP400のLの字なのだ。

義「それって座席直後にエンジンが縦に積まれる、という意味ですよね」

俺「へっ、そうなの…？」。そんな意味をそこで知るとは思わなかったが、それもそのはず。義一氏の愛車は米国製V8エンジンを座席直後に積んだ伊米合作のデ・トマソ・パンテーラだったのだ。

後に尋ねる高砂の鍛錬所の外側ガレージにはパンテーラが置かれ、スナップオンの工具が脇を固めていた。彼はその他にもマリンスポーツにも造詣が深く、寡黙な人格が多い刀匠の中では珍しいタイプだったと思う。

作刀界にはこんな人物がいても良いではないか。いや居るべきだ。後続者たちへのロールモデル、これは必要なことなのだ。

まじめを絵にかいたような根津秀平刀匠。長野の彼の鍛錬所、炭焼き小屋の奥のガレージから野獣の咆哮のような排気音とともに彼が原色のランボルギーニを出してくる…何だか想像できないや。第一似合わん！　やめさせた方がいいな。

（綱取譲一）

デ・トマソ・パンテーラ

ブック・レビュー　BOOK REVIEW

関東武士・重忠の潔さと謎の人物像を描く

『中世武士畠山重忠―秩父平氏の嫡流』

清水 亮 著　定価一九八〇円（税込）　吉川弘文館

畠山重忠は、鎌倉幕府草創期の御家人である。大河ドラマ『鎌倉殿の十三人』の主要な登場人物の一人であった。本書は、畠山重忠について、従来の史料と新史料を考察し、またこれまでに積み重ねられた研究を踏まえ、とてもわかりやすく書かれている。

畠山重忠は廉直の武士として、幕府の歴史書『吾妻鏡』の随所に登場する。見栄えのする武士だったらしく、行軍の際には常に先陣を拝命し、堂々の武者姿を見せた。

何より興味深いのは、彼が、数々の強気な発言をしていること。「謀反を疑われるというのはかえって武士の誉れである」と言い、また潔白の証として起請文を出すよう梶原景時に求められた際には、「自分の言葉と腹の中は一体であるから、起請文など不要である」と言い放っている。

著者の清水氏は、畠山重忠がなぜこうした強気な発言、態度が取れたのかを明らかにするべく、畠山重忠の祖先に当たる桓武平氏高望王、そこから派生した桓武平氏の国香や将門、直接の祖である村岡五郎良文に始まる秩父平氏の歴史を紐解き、関東の武士団の発生と展開、その中で畠山氏はどう位置づけられるのかを、とてもわかりやすく解説している。

面白かったのは、清水氏が考古学の成果や新史料を紹介していること。畠山氏関係の館跡などから、京風かわらけが出土しているという。畠山氏は頼朝挙兵以前には、清盛の平氏政権に仕え、京都での活動があり、京都文化との関わりが深い。それゆえ、重忠も楽器の演奏や今様を謡うことができ、京育ちの頼朝に好かれたのである。というわけで、畠山氏が用いたかわらけも京風であった。彼らはこれで酒を酌み交わし、宴会をしたのであり、同タイプのかわらけの分布で、畠山氏とその友軍の実態を推考することができるという。

そして新史料。畠山重忠の書状が意外なところで見つかっている。薩摩の島津家文書である。なぜ島津なのかといえば、そもそも島津氏は御家人であり、重忠の婿だったからである。それで文献が奇跡的に伝来した。

ただ、まとめるのは大変だったろうと思う。鎌倉御家人についての史料というのは少ないからである。『吾妻鏡』という歴史書や『平家物語』があるではないか、と言われるかもしれない。が、『吾妻鏡』や『平家物語』は鎌倉後期に編纂されたものである。それらをどう評価し、考察するか。研究は至難である。

「である」と断言したいができない、ということも多々あったに違いない。それゆえであろう、処々に「何々とみたい」とか「考えておきたい」という風な文言が見られた。古名刀の研究書でも見た言葉だなあと、思わずニヤリとしてしまった。

ともあれ、難解なテーマながら、読ませる一書にまとめている。流石である。

（小島つとむ）

■**清水 亮**（しみず・りょう）一九七四年、神奈川県生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（文学）。埼玉大学教育学部准教授。著書に『鎌倉幕府御家人制の政治的研究』『畠山重忠』（編著）『常陸真壁氏』（編著）『南北朝遺文関東編』第二～七巻（共編）

考古学的成果を踏まえ、古代刀剣の全容に迫る

『古代の刀剣―日本刀の源流』

小池伸彦 著　定価一九八〇円（税込）　吉川弘文館

日本刀の成立に関して、本書は次のように記す。

「日本刀の刀身については一般に、主要な要素として湾刀、鎬造り、庵棟の三つがあげられることが多い。……考古学的な研究成果からは、鎬造りは早く既に奈良時代から認められる。湾刀化は九世紀後半から共鉄系統の刀で始まり、十一世紀後半には刀身全体に反りの見られるものが現れる。そして、平安時代中期の十一世紀中葉には木柄刀にも腰の反るものが出現して、やがて全国的な傾向として湾刀化が進み十二世紀に至る。庵棟は今のところ出現が最も遅く、平安時代後期の十二世紀中葉以降に木柄刀に現れる。」

二〇一〇年を前後して古代刀剣の研究を主なテーマに、三点の大著が刊行された。菊地芳朗『古墳時代史の展開と東北社会』、豊島直博『鉄製武器の流通と初期国家形成』、津野仁『日本古代の武器・武具と軍事』である。

豊島氏と津野氏にはこの年十二月に開催した「鉄の技術と歴史」研究フォーラム講演会「日本刀の神秘と科学を探るⅡ」において、それぞれの研究成果を発表していただいた。菊地氏は、連絡したのが氏の北京大学留学の前日であったため、残念ながら当方の目的を果たすことはかなわなかった。

われわれ刀剣界では、蕨手刀を中心とする石井昌国氏の研究に湾刀化の根拠を求めることが多いが、考古学界においては三氏をはじめとする有為の研究者たちにより、出土品などの膨大な検討に基づき、既に古代刀剣の編年をほぼ終えている。

本書は、その考古学的成果を実にわかりやすくまとめている。加えて、製鉄や鍛冶の技術、文献資料などを併せ、古代刀剣の全容に迫ろうとする。その意思は多としなくてはならない。

しかしながら、日本の刀剣には依然として解明されるべき謎が少なくない。仮にそれを「刀剣学」の対象とするなら、歴史・考古・金属・文献・文化財科学などさまざまな分野との協働が不可欠であると思うが、いかがであろうか。

（T）

■**小池伸彦**（こいけ・のぶひこ）一九五六年、岐阜県生まれ。広島大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。現在、奈良文化財研究所客員研究員。主な論文に「飛鳥の工房二態」「大和刀工研究序説―飛鳥池工房から三条小鍛冶伝承にいたる―」。

NEWS & TOPICS

京都に文化財修理センターを建設

文化財の修理や人材育成などを一元的に担うため、政府が二〇三〇年までをめどに京都府で建設を計画している国立の「文化財修理センター」（仮称）の基本構想が明らかになった。国が積極的に関与し、人材育成にも力点を置き、中長期的に持続可能な文化財の保存・活用を目指すことが柱となる。

文化財の修理はこれまで主に民間の工房が担い、国が資金面を支援してきた。このため、基本構想では「文化財修理の推進と質の管理を業務とする主体が不明確」と言及し、修理計画の全体をコーディネートする人材の不足も課題だと指摘した。修理対象は彫刻・絵画などの国宝や重要文化財が中心となる模様。

移転した京都に文化財修理センターを計画する文化庁

一方で、修理技術に関しては、職人の高齢化を踏まえ、「後継者不足による断絶の危機にあるものが少なくない」と危機感を示した。修理のためのスペース確保や、用具・原材料の入手が難しくなっている現状にも触れている。

文化財修理センターの役割は、①修理推進（情報集約と共有を含む）、②調査研究のための修理・研究体制の構築、③人材育成、④情報発信（普及啓発）とし、「司令塔機能」を果たすよう促した。

令和六年度はその設計や運営に向けた検討などを進めることにしており、二億円が新規計上されている。

なお、毎年横ばいが続く文化庁の予算だが、六年度の概算要求によれば、五年度比で二七・二パーセント増の一三五〇億円（デジタル庁一括計上分を含む）を計上している。

文化財関連では、「国宝・重要文化財建造物保存修理強化対策事業」が昨年度の一一三億円から大幅に増加し一六五億円に。また「城郭施設整備事業」は新規予算として二四億円が計上されている。地域のシンボルである城を整備することで「観光立国」の推進につなげたい考えがうかがえる。

昨年は、文春オンラインと『文藝春秋』に、東京国立博物館の藤原誠館長による緊急寄稿（「このままでは国宝を守れない」）が掲載され大きな話題を集めたが、次年度予算ではこの東博の平成館の空調設備（展示室系統他）改修に二億六九〇〇万円が新規計上されている。加えて、クラウドファンディングで注目された国立科学博物館については、収蔵庫新営に七億七九〇〇万円の新規予算が要求されている。

刀剣・和鉄文化の保存振興に関する令和六年度予算は、総額で二六一六万円となっている。内訳は次の通り。

①刀剣関係団体等が行う各種研修の支援　一五一二万円
②玉鋼製造技術の保存支援　五七六万円
③刀匠に対する美術刀剣製作の研修会実施　三四一万円
④銃砲刀剣類の登録鑑定実技講習会の実施　一八七万円

このほか、国宝・重要文化財刀剣の修理に対する補助が挙げられている。

NEWS & TOPICS

幕末「水戸天狗党」幹部の指料か

長野県松本市の会社員で刀剣コレクターの佐藤肇祐さん（49）が、幕末に尊王攘夷を訴えて決起した「水戸天狗党」の幹部・田中愿蔵（げんぞう）が所持していたとされる日本刀を入手し、話題となっている。

来年は、水戸天狗党が京を目指し挙兵して百六十年。幕府の命でその前に立ちはだかった松本・高島両藩と下諏訪町で戦った「和田嶺合戦」の節目でもある。佐藤さんは「両藩が手を組んで水戸天狗党と戦った歴史を、松本の人にも知ってもらい、信州人として供養したい」と語っている。

刀は刃渡り二尺四寸、大磨上無銘だが、白鞘に「相模国秋広」の極めと「水戸浪士田中愿蔵陣刀」などの記載がある。

五月以降に高森町の「歴史民俗資料館時の駅」と、下諏訪町の「諏訪湖博物館・赤彦記念館」での展示が予定されている。

田中愿蔵の指料とみられる無銘秋広

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
㈱ 日 本 刀 剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

イベント・リポート

清磨会

76回を迎えた清磨会の開催に当たって

秋の暖かな日差しに包まれた十一月十四日は「江戸三作」の一人に数えられ、四谷正宗とうたわれた幕末の名工・山浦清磨の命日に当たり、今年も「清磨会」が四谷・宗福寺において開催され、約四十名の方が出席されました。

清磨会に参集された皆さん

歴史ある清磨会は七十六回を数え、近年はコロナ禍ということもあり法要のみが執り行われておりましたが、本年は供養とともに四年ぶりに刀剣の鑑賞会とその後の直会（なおらい）も開かれました。

久しぶりに懐かしい方や遠方の方にもお会いすることがかないました。また初めてご参加いただく方も多く、その中には若い方や女性の方もおられました。

展示作品は山浦清磨が六振（大小一腰）と小刀一振、一門の栗原信秀が六振、斎藤清人が三振など、名刀ぞろいとなりました。

なお、今回より㈱刀剣柴田の柴田光隆様より、つるぎの屋の冥賀亮典が清磨会会主を引き継がせていただくことになりました。

柴田社長より昨年の五月ごろ、数年ぶりに刀剣を陳列しての清磨会の再開することを機会に世代交代をしたいというお話をいただき、父とも相談の上で、若輩ではありますがお受けさせていただくことといたしました。

少し私事をお話しさせていただきますと、私が初めて清磨会に参加しましたのは二十五年ほど前の、まだ二十歳ぐらいの大学生のころのことで、先代の柴田光男先生もご健在でした。柴田光男先生・光隆社長のお二人とも本当にお人柄が穏やかで、清磨会の和やかな雰囲気にはお二人のお人柄がそのまま反映されていると感じられたものでした。

参加される皆さまは、常日頃はお忙しく活躍されていらっしゃるものと思います。ただ、一年のうち十一月十四日の清磨会の日は、そんな日常を忘れ、名工を偲んで名刀をご鑑賞いただき、剣友同士で大いに親交を深め、心穏やかに過ごせていただけるような、そんな清磨会を続けていければと考えております。

未熟な会主ではありますが、お力添えをお願いいたしますとともに、また来年も多くの方にご参加いただけますようお願いする次第です。

清磨をはじめとする山浦一門らの名刀を鑑賞刀としてご持参いただいた皆さまには、この場をお借りして御礼を申し上げます。

（冥賀亮典）

初めて臨んだ清磨会にて

「それでは皆さま、順番にご焼香をお願いします」とのご住職の言葉を耳にして、私はあの山浦環先生の前にいるのだ、と実感した。

令和五年十一月十四日、第七十六回清磨会が開催された。長らく新型コロナウイルスの感染拡大により法要のみの形で執り行われていたが、今年より久方ぶりに鑑賞会と直会を併せての開催となった。

私は縁あって今年初めて参加させていただいたためか、畏れ多くも『刀剣界』への寄稿の話を頂き、筆を執った次第である。

十三時より参考刀鑑賞、十四時より解説。清磨一門を主とする数々の名刀に圧倒され、その足跡に思いを馳せた。

近年の研究で、清磨と長州藩家老村田清風の関連が指摘されており、萩において山浦環書状も発見されている（『刀剣美術』第654号）。清磨は江戸から逃げ出したのではなく、萩に招かれたのではないか。そう検討するに足る史料であることは相違ないと思う。

解説が終わると写真撮影を経て法要、お墓参りと続いた。

あれよあれよという間に法要が始まり、法要の真っただ中で、ようやく冒頭の感想を抱くこととなった。墓前には色とりどりの花が供えられており、墓石の後ろには新しい卒塔婆が立てられている。

万感胸に迫る光景であった。ご住職の後ろで、墓前に謹んで手を合わせた。その後の直会でも清磨を愛した先達の話を伺うことができた。

花岡忠男先生の著書によれば、清磨は夫人や門人清人の外出中を狙い、短刀にて自刃している。また、物証がなく判然としないが、服毒していた、ともされる。いずれにせよ、終息までの苦悶は壮絶であったと考えられる。現代の認識では褒められたことでないかもしれないが、兄真雄も松代藩の試刀会に死装束を着て臨んだというのだから、当時の武士の価値観を想えば相当な苦悩の末の決断だったのではないかと思う。

こうして後世に清磨を偲ぶ会が連綿と紡がれている光景を直に見て、「これだけの人から慕われ、熱心に供養されているのだから、山浦環先生はきっと穏やかに眠られているだろう」と感じることができた。

清磨の墓に詣でる

これからも清磨会が末永く続いていくことを心より祈念し、そしてまたその一員として参加できることを願っております。ありがとうございました。（三ッ井彩花）

古都の折々 13

紫式部様へ

石井 理子

筆者は奈良県在住

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

新年早々、楽しみにしていることがある。それは、本年度の大河ドラマだ。

「光る君へ」

いわずと知れた『源氏物語』の作者、紫式部の物語だ。

私は、高校一年のころ、初めて『源氏物語』を読み、未だ覚めぬ夢の中にいる。

その紫式部の生涯を、一年かけてなぞるのだ。それも映像で！

有職故実、美しい色目の衣裳、寝殿造りの邸宅の設え。そして、藤原道長、中宮彰子、中宮定子、藤原公任……。

全てが息を吹き込まれ、生き生きと動くのだ。あまりの贅沢さにため息が出る。

少々、浮かれ気味で筆を進めてきた。しかし、平安時代とは決して「平安」ではなかった。天変地異が多く、貴族の社会から一歩外に出ると、まさしく芥川龍之介の『羅生門』のような世界だった。

その世紀末のような世界は、現代も似たようなものだ。世界中で、紛争や不穏な情勢があふれ返っている。あちらもこちらも羅生門だ。

そんな今だからこそ、私は平安絵巻の中で夢を見たい。見させてほしい。

日曜の夜を心待ちにしている。

NEWS & TOPICS

大牟田市で郷土ゆかりの刀剣催事

「三池典太光世」に始まる三池派の刀工たちが活躍した福岡県大牟田市での地で、一月一三～三十一日、「かたなたび―刀とめぐる大牟田―」と題する刀剣イベントが開催され、大きな話題を呼んだ。

大牟田市公式観光サイトによると、重要刀剣の「脇指 銘 光世」に加え、二〇二三年度現代刀職展で薫山賞を受賞した小宮國天刀匠をはじめとする、四郎國光一門の作品などの刀剣展示、刀匠・研師らによるギャラリートーク、刀鍛冶公開鍛錬などが行われ、一部はライブ配信された。

近年、その地にゆかりの文化財を活用した観光振興が見直されているが、ほかならぬ日本刀を中心に据えた意欲的な試みとして注目される。

■熊本県立美術館

〒860-0008 熊本市中央区二の丸2番　☎096-352-2111

https://www.pref.kumamoto.jp/site/museum/

細川コレクション特別展 土方歳三資料館×肥後熊本藩

天保６年（1835）５月５日、武蔵国多摩郡石田村（現・東京都日野市石田）に生まれた土方歳三は、11歳で江戸に出て奉公を経験し、その後、薬の行商のかたわらで天然理心流を研鑽。この剣術を通じて、４代目宗家を継いだ近藤勇との出会いがありました。

文久３年（1863）、将軍・徳川家茂の上洛に際し、幕府が剣術心得のある者を徴募したため、歳三は近藤ら試衛館の同志とともに上京。その後、浪士組を母体とする政治集団「新選組」を発足させ、洛中洛外の警備に当たりました。特に有名なのは「池田屋事件」に功績を挙げたことでしょう。

明治元年（1868）の鳥羽・伏見の戦いでは、歳三は怪我の近藤に代わって隊を指揮します。敗れて東帰した後は、幕府主戦派の一隊と合流。宇都宮・会津と転戦し、仙台にて幕臣・榎本武揚と諮り、蝦夷へ渡り箱館五稜郭に入城。ここで歳三は、蝦夷仮政権の陸軍奉行並という重職に就き、新政府軍と壮絶な戦いを繰り広げました。そして、明治２年（1869）５月11日、諸兵隊を馬上で指揮している中、流れ弾に当たり、35年の生涯に幕を閉じました。

本展は、土方歳三資料館の所蔵品を中心にして、激動の幕末維新期を駆け抜けた、新選組副長・土方歳三の軌跡をご紹介するものです。また、この機会に合わせて、永青文庫所蔵の肥後熊本藩が記録した新選組にまつわる古文書等を展示します。

会期：1月10日㈬～3月24日㈰

令和6年1月15日発行　刀　剣　界　第68号

催事情報

会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。
現下の状況で入場制限や、観覧するには予約を必要とする場合もありますので、それぞれのホームページをご覧ください。

■東京国立博物館

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9　☎03-3822-1111
https://www.tnm.jp/

特別展「本阿弥光悦の大宇宙」

本阿弥光悦（ほんあみこうえつ・1558～1637）は戦乱の時代に生き、さまざまな造形に関わり、革新的で傑出した品々を生み出しました。それらは後代の日本文化に大きな影響を与えています。しかし光悦の世界は大宇宙（マクロコスモス）のごとく深淵で、その全体像をたどることは容易ではありません。

そこでこの展覧会では、光悦自身の手による書や作陶に現れた内面世界と、同じ信仰の下に参集した工匠たちが関わった蒔絵など同時代の社会状況に応答した造形とを結び付ける糸として、本阿弥家の信仰とともに、当時の法華町衆の社会についても注目します。造形の世界の最新研究と信仰のあり様とを照らし合わせることで、総合的に光悦を見通そうとするものです。

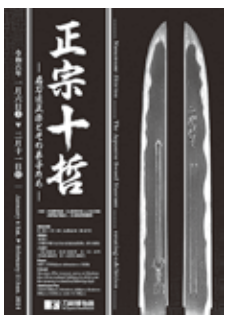
「一生涯へつらい候事至てきらひの人」で「異風者」（『本阿弥行状記』）といわれた光悦が、篤い信仰の下、確固とした精神に裏打ちされた美意識によって作り上げた諸芸の優品の数々は、現代において私たちの目にどのように映るのか。本展を通じて紹介します。

会期：1月16日㈫～3月10日㈰

■刀剣博物館

〒130-0015 東京都墨田区横網1-12-9　☎03-6284-1000
https://www.touken.or.jp/museum/

特別展「正宗十哲―名刀匠正宗とその弟子たち―」



正宗は、鎌倉時代末期に相模国鎌倉で活動した刀工です。正宗の作品として伝わる刀の多くには銘がありません。しかし、よく鍛えられた力強い地鉄に、湾れを主調として、時に大きく乱れ、沸が強く付いた刃文が、正宗の特徴として高く評価されています。それまでの日本刀製作地といえば、山城国、大和国、備前国が知られていましたが、正宗は、これらの産地とは一線を画す新たな作風、すなわち相州伝を完成させたのです。

正宗の出現以後、相州伝は諸国に伝播し、各地の刀工に大きな影響を及ぼすこととなります。中でも、山城国の来国次と長谷部国重、美濃国の兼氏と金重、越中国の江義弘と則重、石見国の直綱、備前国の兼光と長義、筑前国の左文字の十人の作には、正宗からの影響を色濃く見て取れることから、彼らを「正宗十哲」と総称するようになりました。十哲の刀工たちは、必ずしも正宗と直接の師弟関係にはありませんが、鎌倉から遠く離れた地にも、正宗の作風が影響を与え、さらに次の世代の刀工にも受け継がれていった点に、この偉大なる刀匠が打ち立てた相州伝の真価を認めることができるでしょう。

正宗をテーマとした展覧会はこれまでにも開催されてきましたが、十哲たちを特集する内容は今回が初めてです。本展では、相州鍛冶の先人たちから、相州伝を確立した名刀匠正宗、そして正宗の作風を受け継いだ諸国の刀工へと続く、相州伝の系譜をたどります。

会期：1月6日㈯～2月11日㈰

■中之島香雪美術館

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4　☎06-6210-3766
https://www.kosetsu-museum.or.jp/nakanoshima/

企画展「館蔵刀剣コレクション 刀と拵の美」

香雪美術館には現在、約50振の刀剣が所蔵されています。コレクションの礎を築いた朝日新聞社創業者・村山龍平（1850～1933）は、武士であった父の影響から刀剣に強い関心を持ち、若くして収集を始めました。その数は、多い時には800振にも上ったといいます。

美術品を収集する際、時には識者のアドバイスを得た村山ですが、刀剣については他人に頼らず、自らの審美眼を貫きました。そのコレクションは、鎌倉時代から室町時代までの古刀が多く、質実な強さをもつ直刃を基調とした刃文を好んだことがうかがえます。また、全国津々浦々の産地を網羅しており、研究熱心な姿勢が垣間見えます。

本展では、村山が愛蔵した刀剣と、刀剣の外装である拵、拵を飾る刀装具も併せて展示します。刀剣の変化に富む鉄のきらめき、拵の個性的で華やかな装飾、刀装具の緻密で多彩なデザイン、それぞれの「美」を感じていただけると幸いです。

会期：1月6日㈯～3月17日㈰

■茨城県立歴史館

〒310-0034 茨城県水戸市緑町2-1-15　☎029-225-4425
https://rekishikan-ibk.jp/

特別展「那珂湊反射炉―鉄と近代を創る―」

幕末、外国船が日本近海に迫る中、水戸藩は反射炉を建設し、海防のために鉄製大砲を造りました。この事業は失敗も多く、さらに藩内の争いにより反射炉自体が破壊されるなど、成功とは言えませんでした。しかし、この事業を通じて、近代日本を担う人材が生まれたのです。

この特別展では、大砲の図面、製鉄の現場を描いた絵巻、鉄の原材料など、反射炉に関連する資料を紹介します。そこから、明治時代の近代産業の成立をリードした水戸藩の歴史的役割を考えます。

会期：2月16日㈮～4月7日㈰

■刀剣ワールド名古屋・丸の内

〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内2-1-33
https://www.meihaku.jp/

新刀―江戸時代の始まりと刀剣

戦国時代が終焉し、江戸時代という新しい時代の幕開けと重なるように、日本刀も新たな始まりを迎えます。

「新刀」は、安土桃山時代後期から江戸時代中期に作られた日本刀を示しますが、この時期、伝統的な作刀工程にさまざまな挑戦がなされました。室町時代以前の「古刀」とは異なる素材、新しい鍛錬の技術、焼き入れ温度や焼刃土の配合の試みなど。また、「新刀」は、時代や地域により「慶長新刀」「寛文新刀」「元禄新刀」「江戸新刀」「大坂新刀」に分類されています。

本展では、これら５分類に属する刀剣を一同に展示し、約400年前の転換期における刀剣をご紹介します。

会期：12月1日㈮～2月29日㈭

■すみだ北斎美術館

〒130-0014 東京都墨田区亀沢2-7-2　☎03-6658-8936
https://hokusai-museum.jp/

特別展「北斎サムライ画伝」

サムライは、江戸時代に生きた北斎にとって身近な存在でした。本展では、源頼朝や徳川家康など名の知れたサムライだけでなく、北斎と門人たちの目に映った江戸市中に暮らす太平の世のサムライを描いた作品も展示します。また、実際にあった戦いや物語の中の戦う場面を描いた作品もご覧いただきます。江戸時代の人々が抱いていたサムライのイメージに触れるとともに、北斎たちによるサムライの姿をご堪能ください。さらに、刀や鎧といった戦いの道具を取り上げた作品も紹介し、刀剣博物館所蔵の「太刀 銘 信房作」（重要文化財）なども展観します。刀剣そのものと描かれた刀剣を見比べて、イメージを膨らませながら北斎の表現力をお楽しみください。

会期：12月14日㈭～2月25日㈰

■石巻市博物館

〒986-0032 宮城県石巻市開成1-8　☎0225-98-4831
https://makiart.jp/museum/

毛利コレクション特集展「仙台藩の武士の世界」

多種多様な資料によって構成され、その数は10万点を超えると言われる「毛利コレクション」。一大資料群を形成した毛利総七郎は、明治期から昭和期にかけて、在野の郷土史家や各地の骨董商らと交流を重ねながら、さまざまなジャンルの資料を収集しました。このうち江戸時代の資料については、石巻や仙台藩に関係する古文書・絵図のほか、浮世絵、和漢書、刀装具や弓矢といった武具、狩猟具、灯火具・化粧道具・化粧用具・矢立・根付・袋物といった生活資料などが豊富に残ります。

今回の特集展では、令和３年の開館以降、「歴史」をテーマにした展示が限られていること、開館後から古文書の整理にも少しずつ取り組んでいることから、「仙台藩の武士の世界」をテーマに構成してみました。調査整理の成果を踏まえ、テーマに関連する江戸時代の古文書・絵図、モノ資料をピックアップしています。

これまで公に存在が知られていなかった、新出の伊達政宗書状や、中世の石巻を治めた葛西晴信の黒印状から、戦国時代末期から仙台藩成立期の政治史を振り返るとともに、歴代仙台藩主や重臣たちが発給した文書等から、国元仙台と江戸の様子を紹介します。また、伊達家に嫁いだ姫君が所用したと伝わる道具、仙台藩に関係する武具など、武士を取り巻く人々にも注目してみました。

今回の特集展を通して、仙台藩の武士の世界の一端を垣間見るとともに、毛利コレクションの奥深さを再確認するきっかけになれば幸いです。

会期：11月18日㈯～3月10日㈰

■高知城歴史博物館

〒780-0842 高知市追手筋2-7-5　☎088-871-1600
https://www.kochi-johaku.jp/

福をよぶ 城博コレクション～わきたつめでたきもの～

松竹梅や鶴亀といったおめでたい文様をあしらった美術工芸品は、古くから縁起を担ぐために正月やお祝い事を演出してきました。

本展では、当館の収蔵品から新春の訪れを彩る吉祥文様や令和６年の干支である辰にちなんで、龍をモチーフにした美術工芸品をご紹介します。併せて、土佐藩の正月行事に関連する資料とともに、土佐藩主山内家にゆかりのある重要文化財の刀剣４振（太刀 号 一国兼光、太刀 号 今村兼光、太刀 銘 国時、太刀 銘 康光）を展示します。

なお、関連行事として展示する重要文化財の太刀４振が立候補！　展示会場と当館特設ホームページで人気投票を開催します。

会期：1月1日㈪・㈷～3月4日㈪

令和6年(2024)　謹賀新年　本年もよろしくお願い申し上げます

掲載は申し込み順です

やしま
齋藤雅稔
齋藤隆久
東京都西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

㈱晴雅堂清水
代表取締役
清水儀孝
〒111-0032 台東区浅草2-30-11
TEL 03-3842-3777

株式会社 安東貿易
代表取締役
安東孝恭
岡山県岡山市北区清輝橋2-1-32
TEL 086-226-1251
URL http://www.katana-ando.co.jp
刀剣チャンネル→YouTube

刀剣・書画・骨董 株式会社 和敬堂
土肥豊久
土肥富康
新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
URL http://www.wakeidou.com

株式会社 眞玄堂
〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町1-7-17
TEL 03-3252-7844
FAX 03-3251-1419
メール info@samuraigallery.com

刀剣美術 静心堂
芦澤一幸
芦澤淳
〒272-0826 千葉県市川市真間2-1-26
TEL/FAX 047-321-1039

銀座 盛光堂
齋藤恒
東京都中央区銀座8-11-14 盛光堂ビル
TEL 03-3569-2251㈹
URL http://www.ginzaseikodo.com

つるぎの屋
冥賀吉也
冥賀亮典
東京都北区西ヶ原4-35-1
TEL 03-3576-1753
URL https://www.tsurugi-noya.com/

川越 優古堂
三浦優子
埼玉県川越市新宿町1-9-13
TEL 049-249-0700
FAX 049-249-0702

美術刀剣
勝武堂
東京都中野区本町4-45-10
TEL 03-3381-3071
info@shoubudou.co.jp
URL https://www.shoubudou.co.jp

株式会社 刀剣柴田
柴田光隆
〒104-0061 東京都中央区銀座5-6-9
TEL 03-3573-2801
FAX 03-3573-2804
URL http://www.tokensibata.co.jp

刀処
㈱永和堂
朝倉万幸
朝倉忠史
長野県長野市南県町1136
TEL 026-228-0001

刀剣 髙吉
代表
髙島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
URL http://www.premi.co.jp

誰かのために
次世代型刀剣写真制作致します
矢澤隼
090-3595-7824
詳しくは
360度デジタル刀 標本

飯田高遠堂
飯田慶雄
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
URL http://www.iidakoendo.com

銀座日本刀ミュージアム 泰文堂
川島貴敏
〒104-0061
東京都中央区銀座6-7-16 岩月ビル2階
TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367
メール taibundo@herb.ocn.ne.jp
URL https://www.taibundo.com

日本刀 販売 買取 有限会社 葵美術
代表取締役
鶴田一成
渋谷区代々木1-54-6
TEL 03-3375-5553
メール info@aoijapan.jp
URL http://www.aoijapan.jp

奈良県無形文化財保持者
月山貞利
〒633-0073
奈良県桜井市大字茅原228-8
TEL・FAX 0744-42-3230
URL http://gassan.info

銀座長州屋
東京都中央区銀座3-10-4
TEL 03-3541-8371

御刀研磨処楽屋
御刀研磨処楽屋で検索
研師
平井隆守
岐阜県関市
メール onkatana@d6.dion.ne.jp

株式会社 美術刀剣松本
東京西葛西店
松本義行
〒134-0088
東京都江戸川区西葛西6-13-14 丸清ビル3F
TEL 03-6456-0889

刀剣・新古美術品
株式会社 宝古堂美術
代表取締役社長
山田雄一郎
東京都目黒区上目黒1-1-6
TEL 03-3792-0008

刀剣・小道具・鎧 刀剣杉田
代表
杉田侑司
豊島区池袋2-49-5
TEL 03-3980-1461
FAX 03-3980-1463
メール info@token-net.com

服部美術店
東京都中央区日本橋3-5-12・2F
TEL 03-3274-5170

武蔵国一の宮・美術刀剣・骨董品・居合道・古式銃専門店
有限会社 清水商会
代表取締役
清水敏行
〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町3-7
TEL 048-668-0773
FAX 048-647-7434
URL http://www.surplusleopard.com/

福隆美術工芸
FUKURYU FINE ARTS AND CRAFTS
代表者
綱取譲一
東京都中央区八丁堀3-1-3 飯野ビル1階
TEL 03-6280-4987

刀剣研師
臼木良彦
〒135-0045
東京都江東区古石場1-2-7
TEL 03-3643-3228

札幌 横山美術
横山忠司
〒060-0053
北海道札幌市中央区南三条東1-6
TEL 011-251-7652
FAX 011-251-1788

gallery 陽々 youyou
刀装具・武具・古美術
山梨県北杜市長坂町中丸1712-7
Tel. 0551-45-8113
www.galleryyyouyou.com

刀剣・武器・武具 刀剣はたや
籏谷三男
〒194-0013
東京都町田市原町田3-14-14
TEL 042-729-2022
FAX 042-721-6080
URL https://www.toukenhataya.jp

株式会社 丸英刀剣
栃木県小山市乙女3-7-30
TEL 0285-45-0158

日本刀 銀座丸英
東京都中央区銀座7-13-22 友野ビル1階
TEL 03-6264-0739

㈱日本刀剣
伊波賢一
〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
虎ノ門ヒルズ駅A出口すぐ

株式会社 山城屋
代表取締役
嶋田伸夫
東京都豊島区巣鴨1-21-8
TEL 03-3942-2701

もちだ美術
持田具宏
さいたま市中央区上落合1-9-4-447
TEL 048-855-4792

美術刀剣、小道具、武具類の売買、加工及び御相談承ります
大阪刀剣会
吉井唯夫
大阪市中央区日本橋2-7-1
TEL 06-6631-2210
FAX 06-6644-5464

㊥銀座誠友堂
千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館2階
TEL 03-3558-8001
URL http://www.seiyudo.com

匠の店 新堀美術刀剣
新堀孝道
〒241-0024
横浜市旭区本村町40-7
TEL 045-364-2893
FAX 045-520-2880
携帯 080-1354-0008

赤荻刀剣店
赤荻稔
茨城県下妻市下妻乙172の5
TEL 0296-44-2643

大和美術刀剣
大西康一
さいたま市南区大谷口5277
TEL 048-875-2122

株式会社 舟山堂
稲留修一
〒332-0011
埼玉県川口市元郷2-15-1-1309
TEL 048-222-8195

日本刀研磨・諸工作承ります
美術工芸武神
研師
黒田充弘
〒514-0022
三重県津市愛宕町158
TEL 059-261-1982
https://www.nihonto-togisi.com/

木村美術刀剣店
木村義治
群馬県高崎市萩原町484-10
TEL 027-352-1590
FAX 027-352-1591

刀剣・古銭・切手・古美術品 売買
㈱城南堂古美術店
代表取締役
田中勝憲
東京都目黒区上目黒4-31-10
TEL 03-3710-6776
携帯 090-3208-9612

刀剣・書画・骨董・茶道具
ギャラリーみそのう
御園生敏明
東京都江東区亀戸2-8-6 長谷川ビル1F
TEL 0120-000-388
FAX 03-5626-6134

美術刀剣、小道具の売買承ります
㈱コレクション情報
代表取締役
村上和比子
岐阜県岐阜市西川手7-89
TEL 058-274-1960
FAX 058-273-7369
URL https://www.samurai-nippon.net

刀剣の店 玉山名史刀
玉山祐司・真敏
岡山市北区田町1-1-1
TEL/FAX 086-227-4188
URL http://www.t-touken.com

刀剣・小道具
美術刀剣 前田
店主
前田幸洋
〒577-0826
大阪府東大阪市大蓮北2-14-5
TEL 090-9621-8196

美術刀装具 石井
石井理子
〒639-2163
奈良県葛城市八川149-9
TEL 090-6236-8042

印刷／株式会社キタジマ